



ある年の元日の朝のこと。NHKを見ていると、元日のゴールデンタイムに伊予市を舞台とする番組を放送するとか。私の出自は伊予市ですから、夜を心待ちにしました。その番組は、ある芸人と元野球選手が伊予市のあちこちを飛び込みで訪れるという筋立てでした。突然、一般の家庭にお邪魔したり、小学校の授業に紛れ込んだり。

## バナナ館

川田 篤  
弁護士・弁理士



そのうち、「バナナ館」という八百屋のような店を、芸人と元野球選手が訪問します。あれ、私の従兄が出てきました。あれ、義理の伯父も出てきました。実は、バナナ館は、伯父や従兄のお店です。今は伊予市の1店舗ですが、少し前まで、松山市の土橋にも店舗がありました。伯父はとうに傘寿を超え、還暦の従兄が切り盛りしています。

巨大なガレージのようなバナナ館の塔のてっぺんには巨大なバナナを持ち上げた巨大なミニユメント。そのミニユメントの下には、伯父の巨大な似顔絵。お店の壁はバナナのイメージで真っ黄色に塗られ、人を模した大きなバナナの絵が描かれています。バナナが「しあわせになろうネ」

とつぶやいています。一度来たら、また来るかは分かりませんが、決して忘れないことは請け合いです。

バナナ館は、最大、松山市と伊予市の2店舗まで。四国に展開してもいなければ、まして全国区ではありません。従兄いわく、某巨大スーパーは恐竜のように大きくならず、環境の変化について行けずに滅びたのだと。自分は小さな哺乳類でもいいから、氷河期を乗り越えて生きる術を考えていると。

近時、四国の町を歩き、国道沿いに目にする店は、多くは東京の会社の系列店。そうでなければ、大阪、名古屋、広島などの会社の系列店。四国から全国展開はなかなか難しいかもしれません。しか

## ふるさと伝言

し全国区にこそならないまでも、四国のお店屋さんにも、一層の英知と努力を尽くして、頑張ってください。

東京一極集中にも賛否あるでしょうが、私が留学したドイツは伝統的に地方分権。企業も全国に分散。ドイツといえばビールですが、我が国の酒蔵のように各都市に小さなビール醸造所があります。パン屋さんも、我が国のコンビニくらい街角のそこかしこに。愛媛でも、石鎚の湧水のビール会社、愛媛産小麦のパン屋さんと行かないでしょうか。バナナ館の従兄の娘さんも、東京で公認会計士の資格を取りながらも、今は愛媛にUターン。何ごとか始めているとか。うまくいくなと思えます。

これまで道標を通じて、愛媛との関係を振り返らせていただきました。愛媛に住んだことこそありません。しかし、故郷と呼べるのは両親の故郷の愛媛をおいてないと再認識しました。愛媛に何かもう少し貢献できないかと思いつつも、おいしい愛媛ミカンを買いたい。歯がゆいまま、いつの間にか初老。愛媛の親戚なども次第に少なくなりつつありますが、連載中、幾人となってお便りをいただきました。道後の湯を楽しみに四国の地を踏むときは、少しずつでも知り合いの輪を広げたいものです。そして、自分の思い出の中では、瀬戸の島山とともに、両親を含め、皆、生き続けると信じています。

(かわだ・あつし、本籍伊予市)